



校長室だより

第 5 7 号
(通算第 1 1 0 号)
令和5年3月13日(月)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

みやぎ鎮魂の日

先週の土曜日、3月11日は、「みやぎ鎮魂の日」でした。本日、沼小防災の日ということで、校内テレビ放送で「みやぎ鎮魂の日」についての話をしました。今回も両面になります。

まず、東日本大震災で犠牲になられた方々の御冥福を祈って黙祷を捧げましょう。

12年前、2011年の3月11日、金曜日でした。午後2時46分にとっても大きな地震が発生しました。その地震により津波も襲ってきました。海が近い市や町では津波の被害を受けました。大崎市は津波の被害はなかったものの、田尻地域では震度6強を観測しました。大崎市で壊れたおうちが1万2千軒以上ありました。

この地震による震災の名称は「東日本大震災」と命名されました。東日本大震災の特徴としては、たくさんの方が亡くなりました。また、広い範囲に渡る津波被害に加え、水道や電気、道路や鉄道線路が壊れました。通信施設が壊れてしまって情報不足や混乱が起きました。食料等の確保がなかなかできないということもありました。深刻な燃料不足も発生しました。とんでもない量のがれきも発生しました。

宮城県では、東日本大震災で亡くなられた方々に追悼の意を表し、震災の記憶を風化させることなく後世に伝えるとともに、震災からの復興を誓う日として、「みやぎ鎮魂の日を定める条例」を制定し、3月11日を「みやぎ鎮魂の日」と定めています。

先日授業中に地震が発生したときに、みんなはすぐに机の下に潜り込んだことが分かりました。東日本大震災が発生した時、6年生の多くが産まれたばかりで、他の人達はまだ産まれていませんでした。だから震災のことは、ほとんど分からないと思います。けれども、東日本大震災を経験した大人は、大きめの地震があると、また津波が来るのではないかと、家が壊れるのではないかと、かなりドキドキするのです。

慶応大学防災社会デザイン研究室というところで「命を守る3つのポーズ」というのを考えたそうです。東日本大震災のような大きな地震では、大人も身動きが取れず、適切な指示を出せないときもあります。だから、みんなは自分の判断で命を守る必要があります。

「命を守る3つのポーズ」

1つ目、さるのポーズ

2つ目、だんごむしのポーズ

3つ目、あらいぐまのポーズ

命を守るために、さる、だんごむし、あらいぐま、この3つをしっかりと覚えましょう。

地震はいつ起こるか分かりません。田尻さくら高校の校長先生からとても大切な

ことを教えてもらいました。それは、これまで発生した大きな地震は夜中に発生していることが多いそうです。7年前に発生した熊本地震は大きな揺れが2回起きました。1回目は夜9時26分、2回目は真夜中の1時25分に発生したそうです。みんなが寝ている時間だね。

また、学校やおうちに向かっている途中や、お友達と遊んでいる時などに地震が来ることも考えられるね。大人の人がそばにいるとは限らないね。「夜や、大人の人がそばにいないときに、地震が発生したら、どのように行動しようか」、「おうちでの備えはどうか」など、普段からきちんと考えておきましょう。災害が発生した時にどう行動するか、おうちの人と確認しておくことも大切だね。

何度も言います。「自分の命は自分で守る」そして、「命を守る3つのポーズ」をしっかり覚えてくださいね。

今日は、みやぎ鎮魂の日についてのお話をしました。



私の話のあと、各教室で防災について学習しました。

12日の新聞には、かなり紙面をさいて、3. 11の記事が掲載されていました。風化させることなく、子供たちに伝えていきたいと思います。

今思うと、東日本大震災発生の際は、身動きが取れませんでした。揺れが収まるまで、ただ天井を眺めていただけだったような気がします。災害時に咄嗟に行動できるようにするためには、日ごろの心構えと、訓練が大事だなと、改めて感じた沼小防災の日でした。